



守谷高校 図書室



## 新着図書紹介

『コーヒーが冷めないうちに』 川口 俊和

「お願いします、あの日に戻らせてくださいー。」

目立たないとある喫茶店に過去に戻れる席があります。いくつかの条件をクリアすると、願いがかなえられます。四話からなっていて、それぞれに深い愛情が感じられます。過去は変えられないのですが、未来への希望にあふれた心温まるお話です。

(映画化され、話題になっています。)



『一瞬の風になれ』 第一部 イチニツイテ 佐藤 多佳子  
第二部 ヨウイ  
第三部 ドン



サッカー一家に育った少年が、高校入学を期に陸上に転向。抜群の才能を持つ親友や、走ることにひたすら熱い友人らとともに駆け抜けるまさに風のような青春ストーリー。

秋の気配を感じる爽やかな季節になりました。今回の「図書便り」では、心がいやされるような作品を紹介します。

## 『大家さんと僕』 矢部 太郎 著

「手塚治虫文化賞」短編賞受賞



著者と大家のおばあさん（88歳）との心温まるエピソードを描いたコミックエッセイです。矢部さんは大家さんの住む一軒家の2階に下宿していて、毎月恒例の「家賃手渡し後のお茶会」を重ねるうちに心を通わせていったといいます。一緒にお茶したり、たらこを買うために新宿の伊勢丹にタクシーで出かけたり、一人暮らしにはない経験もほのぼのと描かれています。家族やお友達を亡くされたり辛い思いもされているのに、ユーモアがあって上品で時々自虐的な会話もあり、何かと矢部さんに声をかけ世話を焼く大家さん。矢部さんも大家さんの思い出話に耳

を傾け困った時には手を差し伸べる。こんな二人の様子に心の中がじわーと温かくなっていく作品です。ただ残念なのは、今年8月に大家さんが亡くなられてしまったことです。ご冥福をお祈りいたします。

## 人物紹介



<p><b>矢部 太郎</b> お笑いコンビ「カラテカ」のボケ担当。テレビバラエティでうまくしゃべれないのが悩み。同世代の女性より大家さんの方が話が合う。父親は絵本作家の やべみつのり氏</p>	<p><b>大家 さん</b> とても上品な物腰で挨拶は「ごきげんよう」。矢部との「二人暮らし」がたのしくて寿命が延びたような。好きなものは、伊勢丹とNHKと羽生結弦くん。</p>
---	--



## ＜ハロウィン＞って何？

10月に入ると日本でも＜ハロウィン＞のイベントが各地で行われるようになってきましたが、そもそもどういう意味があるのでしょうか。

毎年10月31日に行われる古代ケルト人（紀元前9世紀頃中央アジアからヨーロッパに移住したインド・ヨーロッパ語族系の民族）の祭りで、もともとは秋の収穫を祝い、悪霊などを追い出す宗教的な意味合いがあった。現代では特にアメリカ合衆国で民間行事として定着し、祝祭本来の宗教的な意味合いはほとんどなくなっている。カボチャの中身をくりぬいて「ジャック・オー・ランタン」を作って飾ったり、子どもたちが魔女やお化けに仮装して近くの家々を訪れ、お菓子をもらったりする風習などがある。

